

エチクロゼート乳剤 フィガロン乳剤	取扱メーカー： 日産 原体メーカー： 扶桑化学
成分： エチクロゼート〔オーキシシン剤〕……………20.0% その他 PRTR 該当成分： ボリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル〔PRTR・1種〕…9.5% キシレン〔PRTR・1種〕……………16%〈15～18%〉 エチルベンゼン〔PRTR・1種〕……………13%〈11～14%〉	性状： 黄褐色透明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第2石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

【品目特性】……………

●植物ホルモン剤で、エチレンの誘起によりみかんの熟期促進と摘果の作用がある。

〈熟期促進（着色促進、糖度の上昇促進）〉

●エチレンの誘起により熟期が促進され、収穫果は着色が良く、糖度の上昇が早まる。また、浮皮果の発生が軽減される。

〈摘果作用〉

●エチクロゼートのオーキシシン活性により誘起されるエチレンが幼果の離層形成を促進するためと考えられ、生理落果を助長する作用がある。

●果実の肥大(発育)が小さい程落果し、直花果や遅れ花果程落果しやすいので玉ぞろいがよくなる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈熟期促進（着色促進、糖度の上昇促進）目的〉

●特に散布時期、散布濃度に注意する。

●温州みかんの熟期促進だけに使用する場合

第1回目の散布はみかんの満開後50～90日頃に散布濃度2000倍で、第2回目の散布はみかんの満開後70～110日頃に散布濃度3000倍で、各10 a 当たり約300 ℓ を樹全体に散布する。

●温州みかんに間引摘果をかねて使用する場合

第1回目の散布は、間引摘果散布により省かれ、第2回目散布はみかんの満開後70～80日頃に散布濃度3000倍で10 a 当たり300 ℓ を樹全体に散布する。

●適正な着果量の樹に散布し、過小の樹には散布しない。

●夏芽を発生させたい樹には使用しない。

●散布は樹冠部全体に均一にかかるように丁寧に行う。

●連年使用を続けると樹勢が低下する場合があるので、葉色、葉の大きさ等により、樹勢を見極めて使用する。

〈間引摘果〉

●散布時期には、気温・天候・生理落果波相などの樹体条件が平年状態の時は、みかんの平均果径20 mm（満開35～45日後）頃、散布濃度は通常2000倍、散布液が葉先からしったり始める程度に（標準300 ℓ / 10 a）散布する。

●樹勢の安定した成木園で、散布適期をつかみ正しく散布する。

●早生品種や着果量が多い（葉果比10以下）場合には、早目に散布する。

●散布後数日間の平均気温25℃以上が好適で、異常低温（平均20℃以下）が続くと摘果効果が劣る。また、異常高温（最高気温30℃以上）が続くと予想される時は、過摘果のおそれがあるので、スソ枝、部分散布にとどめる。

●本剤散布後、仕上げ摘果を行い、果実の均質化をはかる。

●散布は樹冠全体に均一にかかるように行う。特に樹冠頂部に薬液がかかりにくく、手直し摘果もしにくいので、ムラのないよう丁寧に散布する。

●きんかんの摘果に使用する場合は、3番果または4番果のいずれかの摘果とし、使用回数は1回とする。きんかんでは連年施用を続けると樹勢が低下する場合があるので、葉色、葉の大きさ等により樹勢を見極めて使用する。

〈温州みかんの全摘果〉

●散布期間は、生理落果のピーク頃が効果的である。

●樹全体摘果の場合は樹全体に、部分摘果の場合は摘果したい部分だけに1000倍液を均一に散布する。

●本剤の1000～2000倍液と、エスレル10の

2000～8000倍液とを混合使用するとより効果的である。但し、エスレル10の濃度が高い(2000倍)と旧葉の落葉を助長することがあるので注意する。

●気温が高くなる日に散布すると、効果が高まる。

〈夏秋新梢伸長抑制〉

●連年施用すると樹勢が低下する場合があるので注意する。

〈かきの着色促進〉

●下記以外の品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(効果の確認されている品種) 富有、西村早生、

西条、次郎、松本早生富有、太秋、前川次郎

●倍率を間違わないよう注意する (5000倍)。

●樹勢の安定した園で使用する。

●低温年や異常乾燥年では注意する。

●病害虫防除、肥培管理、その他栽培管理の適切に行われた園地で使用する。

●露地栽培以外では使用しない。

【薬効・薬害等の注意】

●微量で植物に影響が出るので、使用時期、使用量、使用方法を誤らないように注意する。

●石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用はさけ、本剤散布の約10日前から1～2日後の近接散布はさける。

●周辺の作物にかからないように注意して散布する。

●かんぎつに使用する場合は、7～8年生以上の樹勢の安定した成木に使用する (若木や樹勢の弱い樹、生理障害園では使用しない)。

●明らかに樹勢の低下した樹への連用はさける。

●使用の際は、薬液が葉先からしたたり始める程度にムラなく、丁寧に散布する。

●本剤は散布直後に降雨があった場合でも、再散布はしない。

●使用後の散布器具などは十分洗浄しておく。

●共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】



【適用と使用法】

作物名	使用目的	使用時期	希釈倍数	10 a 当り使用液量	本剤の使用回数	使用方法	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数
温州みかん	全摘果	生理落果最盛期 (満開10～20日後)	1000倍	葉先からしたたりはじめる程度 (250～500ℓ)	1回	摘果したい部分に散布	4回以内 (1000倍希釈散布は2回以内)
			1000～2000倍			エスレル10の2000～8000倍希釈液と混合して摘果したい部分に散布	
	間引摘果	満開20～50日後で生理落果のある時				立木全面散布	

作物名	使用目的	使用時期		希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数
温州 みかん	熟期促進	間引き摘果をかねて 使用する 場合	1 回目：間引摘果用として使用（満開20～50日後） 2 回目：満開70～80 日後 但し、収穫 14 日前まで	1 回目：1000～2000 倍 2 回目：2000～3000 倍	葉先からしたたりはじめる程度 (250～500 ℓ)	2 回	立木全面散布	4 回以内 (1000 倍 希釈散布は 2 回以内)
			1 回目：満開50～90 日後 2 回目：満開70～110 日後 但し、収穫 14 日前まで	2000～3000 倍				
	浮皮軽減	1 回目：蛭尻期 2 回目：蛭尻期の2週間後 但し、収穫 7 日前まで	1000～2000 倍	1～2 回				
	夏秋梢伸長抑制	新梢萌芽期 但し、収穫 14 日前まで		1 回				
きんかん	3 番果の摘果	3 番花の満開 4～7 日後	2000～3000 倍	2 回				
	4 番果の摘果	4 番花の満開 4～7 日後				1000～2000 倍		
	熟期促進	1 回目：満開50～90 日後 2 回目：満開70～110 日後 但し、収穫 21 日前まで	2000～3000 倍	2 回				
	夏秋梢伸長抑制	新梢萌芽期 但し、収穫 60 日前まで				1000～2000 倍		
かんきつ (温州みかん、きんかんを除く)	熟期促進	1 回目：満開50～90 日後 2 回目：満開70～110 日後 但し、収穫 21 日前まで	1000～2000 倍	1～2 回				
	夏秋梢伸長抑制	新梢萌芽期 但し、収穫 60 日前まで				5000 倍		
かき	着色促進	満開70～80 日後 及びその 15～20 日後						